

TOUR DE HOKKAIDO 2006 NEWS

開幕直前 2006年9月13日発行

昨年度個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	エディー・ラッティ	NIPPO	19:26:47
2	岡崎和也	NIPPO	+2:32
3	清水都貴	プリヂストン・アンカー	+2:41
4	狩野智也	シマノ	+2:56
5	新保光起	愛三工業	+3:01
6	別府匠	愛三工業	+3:40
7	真鍋和幸	NIPPO	+3:51
8	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	+4:14
9	盛一大	愛三工業	+4:42
10	マーク・A・ウォルターズ	カナダ	+4:48
11	廣瀬佳正	シマノ	+4:56
12	米山一輝	ラパネロ	+5:02
13	ティロ・シュラー	ドイツ	+5:06
14	西谷泰治	愛三工業	+5:08
15	広瀬敏	愛三工業	+5:10

昨年度個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	101
2	エディー・ラッティ	NIPPO	71
3	ティロ・シュラー	ドイツ	70
4	マーク・A・ウォルターズ	カナダ	48
5	清水都貴	プリヂストン・アンカー	44
6	岡崎和也	NIPPO	36

昨年度団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	NIPPO	58:26:59.4
2	愛三工業	+4:31
3	プリヂストン・アンカー	+6:29
4	シマノ	+6:47
5	韓国	+8:56
6	ミヤタ・スバル	+9:13
7	キナンCCD	+9:38
8	ロシア	+10:12
9	北海道地域選抜	+12:02
10	日本大学	+14:45
11	ドイツ	+16:24
12	チャイニーズタイペイ	+17:29
13	カナダ	+20:37
14	ラパネロ	+22:32
15	法政大学	+29:53

昨年度個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	エディー・ラッティ	NIPPO	31
2	別府匠	愛三工業	30
3	新保光起	愛三工業	8
4	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	7
5	盛一大	愛三工業	7
6	田代恭崇	プリヂストン・アンカー	7

Preview 第20回記念大会に相応しい札幌市大通公園クリテリウム開催



第20回の記念すべきスタートは道北の中心都市旭川市。石狩川河川敷に特設された2.5kmのコースで行われるプロローグで開幕



ツール・ド・北海道の3賞リーダージャージ。左から山岳賞、個人総合時間賞、ポイント賞。最終日札幌の大通公園でこのジャージを着るのは誰だ？



道北を中心に全6日間、計734kmで開催される第20回大会。最終日は大会念願の大通公園でのクリテリウムが行われる

第20回を迎えるツール・ド・北海道国際大会は、道北中心都市旭川で行われるプロローグでスタート。道北を舞台に6日間、総走行距離734kmで争われる。

初日の舞台は旭川市石狩川河川敷2.5km。翌日の第1ステージは、旭川市大雪アリーナ前をスタートし、上紋峠を通過し、名寄市JR駅前にフィニッシュする169km。第2ステージは土別市役所をスタート、土別峠、霧立峠

を通過して日本海岸沿いを走り、小平町から達布峠を通過して沼田町に出て深川市総合運動公園でフィニッシュする185km。

今大会最も難しいとされる第3ステージは、東神楽町役場前から望岳台を通過して十勝岳温泉を巡り富良野市に入り、桂沢湖から三笠市総合運動公園までの170kmで争われる。

第4ステージは美瑛市役所から、空知、石狩を巡り札幌のモエレ沼公園に入りフィニ

ッシュする平坦基調のステージとなっている。そして最終第5ステージは、9月18日札幌市のシンボル大通公園にて行われる。1周1.5kmの特設コースを20周する30kmのクリテリウム。ツール・ド・フランス最終日のシャンゼリゼの如く、6日を戦い抜いた選手たちが大通公園を凱旋することになる。今年の参加チームは海外6チーム、国内8チーム、学生6チームの全20チーム。

Next Stage 顔見せプロローグ。最初のグリーンジャージは誰の手に？

前回大会はNIPPOが完膚なきまでレースを支配した。エディー・ラッティの個人総合時間優勝を含む3賞ジャージ独占。団体総合時間優勝も果たした。

ラッティの参加はないが、そんな鉄壁な走りをみせたNIPPOが今年はどんな走りをみせるかに注目。昨年個人総合時間2位の岡崎和也とポイント賞のマリウス・ヴィズィアックが中心となってレースを組み立てていくことになる。

初日、注目は3大会連続でプロローグを制している愛三工業。03、04と連覇した西谷泰治と、昨年先輩西谷を抑えて優勝を果たした盛一大の2人だ。今年のプロローグでも優勝候補として、多くの人がこの2人をあげている。愛三工業とし

ては4年連続のプロローグ制覇とともに、3年連続第1ステージで失っているリーダージャージ死守が目前の目標だ。

ヨーロッパを拠点に活躍しているスキル・シマノとVANGの2チームは本場ヨーロッパで鍛えられた力をみせてくれることだろう。ただ主力がアジア選手権や世界選手権のために不参加となっている。その影響も気になるところだ。

過去の優勝経験者を含む海外チーム勢も強敵ぞろい目目が離せない。ミヤタ・スバル、マトリックス、プリヂストン・アンカーの国内チームも万全の態勢でこの北海道に挑む。

また昨年活躍を見せた学生勢のさらなる活躍にも期待したい。



昨年、圧倒的な強さをみせたNIPPOのメンバー。左から大門監督、真鍋和幸、マリウス・ヴィズィアック、エディー・ラッティ、岡崎和也